

感情によって伝わりやすい
文末表現は異なるのか
～ポライトネス理論の視点から見る～

武生高校 二年

I: 目的・動機

SNSの普及に伴う弊害→伝えたい感情が正しく伝わらない

★伝わりやすい方法は？

I: 目的・動機

SNSの普及に伴う弊害→伝えたい感情が正しく伝わらない

伝わりやすい表現方法を調べる



感情と文末表現に着目

感情: 喜び、悲しみ、怒り

不安、感謝、謝罪

文末表現: 敬語、句点、絵文字

プルチックの感情の輪

人間の感情を色相環のように分類したもの



対になる感情を2組ずつ



問い

〈問い〉感情によって伝わりやすい文末表現は異なるか

〈仮説〉感情によって伝わりやすい文末表現は異なる

ポライトネス理論 (1987年にアメリカ言語学者ブラウンと、レビンソン博士が提唱した理論)

ポライトネス: 会話相手との関係を良好に保つための配慮

フェイス: 人と人とのかかわり合いに関する欲求

▷ ポジティブ・フェイス (以下、Pフェイス)

他人と関わりたいと思うこと

▷ ネガティブ・フェイス (以下、Nフェイス)

他人と関わりたくないと思うこと

フェイス

ポジティブ・フェイス(以下、Pフェイス)

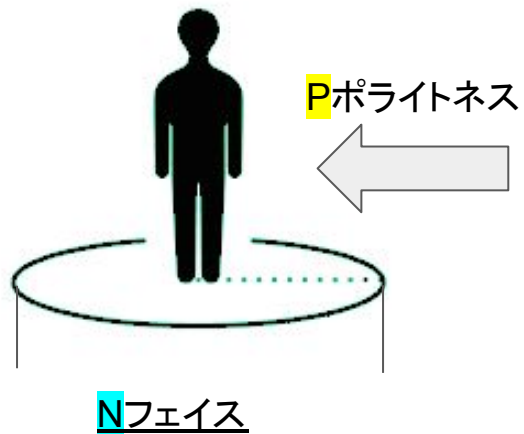
他者に好かれたい、認められたいなど、他者や集団との関わりを望み、個人から承認された望ましい自己像を維持することへの欲求

ネガティブ・フェイス(以下、Nフェイス)

他者に干渉されたくない、立ち入れたくないなど、他者や集団から距離を置くこと、個人の領域を維持し行動の自由を保つことを望む欲求

ポライトネス理論の例

Aさん



Bさん



Aさん



Bさん



嫌な気分にな...

ポライトネス理論

絵文字→ポジティブ・ポライトネス

(以下、Pポライトネス)

敬語→ネガティブ・ポライトネス

(以下、Nポライトネス)

句点は不明

仮説

感謝 Pフェイス 謝罪 Nフェイス

喜び Pフェイス 悲しみ Pフェイス

恐れ Pフェイス 怒り Nフェイス

(状況設定: 友達とのLINE)

仮説

感謝 絵文字 謝罪 敬語

喜び 絵文字 悲しみ 絵文字

恐れ 絵文字 怒り 敬語

絵文字はより感情を伝達しやすくする

M:調査方法

- アンケート作成、配信

対象:武生高校生(1~3年生)

媒体:Google Forms

- データを集計

調査方法

- アンケート調査
対象: 武生高校生(1~3年生)
媒体: Google Forms
- 6つの感情ごとの場面設定
(相手は友達とする)
- 伝わりやすい順に
1~4の順位をつける
(**常体**・**敬語**・**絵文字**・**句点**)



1番思いが伝わるもの*

- ごめん
- ごめんなさい
- ごめん。
- ごめん🙄

集計方法

一人ひとりの結果に対して、

- ・一番目に感情が伝わる表現・・・4点
- ・二番目に感情が伝わる表現・・・3点
- ・三番目に感情が伝わる表現・・・2点
- ・四番目に感情が伝わる表現・・・1点

各順位にポイントを課して、表現ごとにポイントの平均値を出す

R:結果

感謝

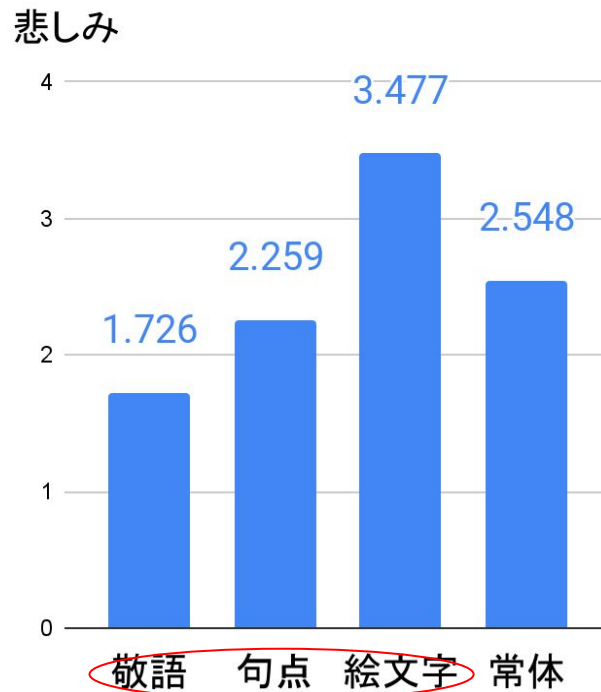
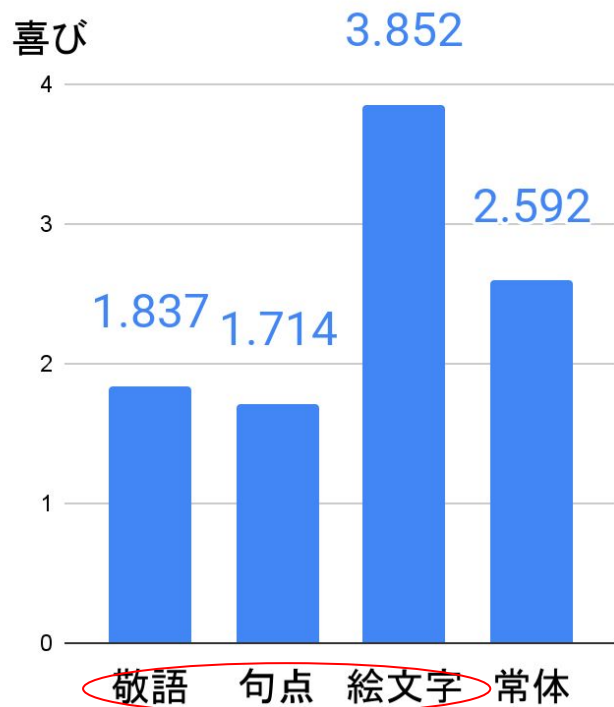


謝罪



n=117

R:結果



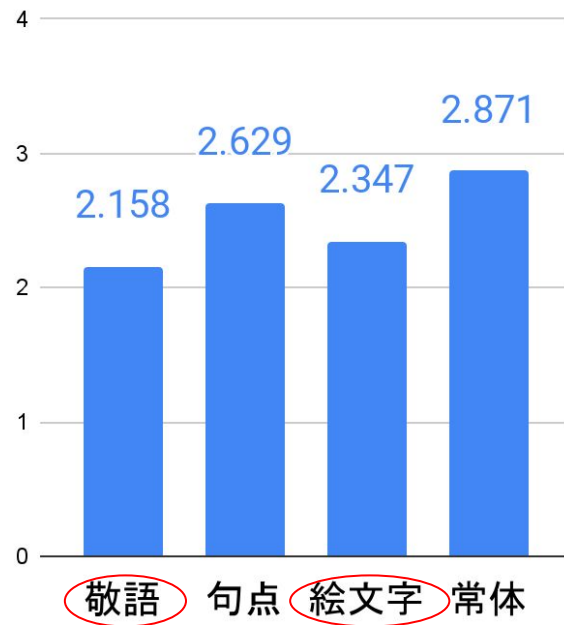
n=200

R:結果

恐れ



怒り



n=100

D: 考察

感謝⇒Pフェイス

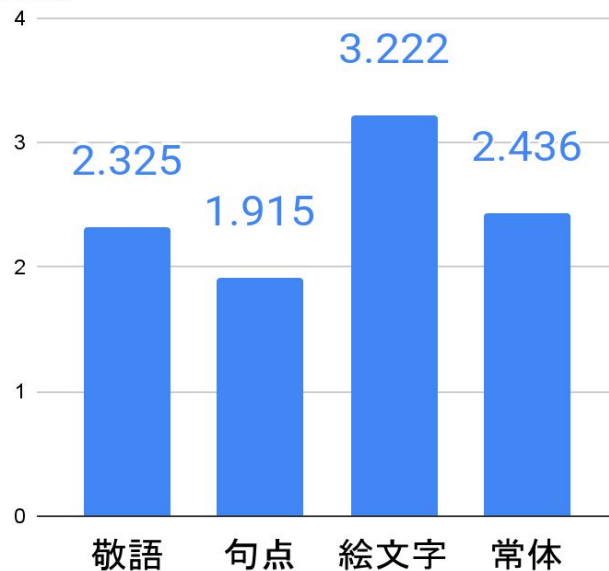
▪ 絵文字が高い

↳ Pポライトネス

▪ 句点が低い

○ 絵文字が適切

感謝



D: 考察

謝罪⇒**N**フェイス

▪ 敬語が高い

↳ **N**ポライトネス

▪ 絵文字が低い

↳ **P**ポライトネス

○ 敬語が適切

謝罪



D: 考察

喜び⇒Pフェイス

・絵文字が高い

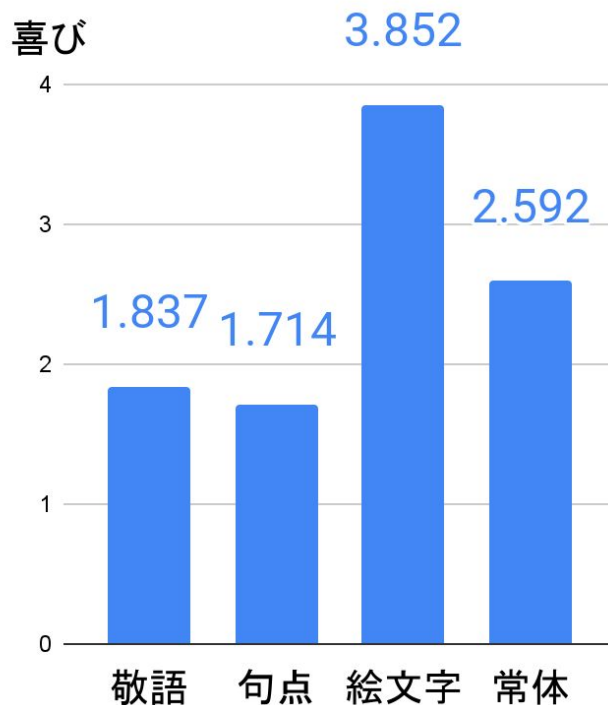
↳ Pポライトネス

・敬語が低い

↳ Nポライトネス

・句点も低い

○絵文字が適切



D: 考察

悲しみ⇒Pフェイス

・絵文字が高い

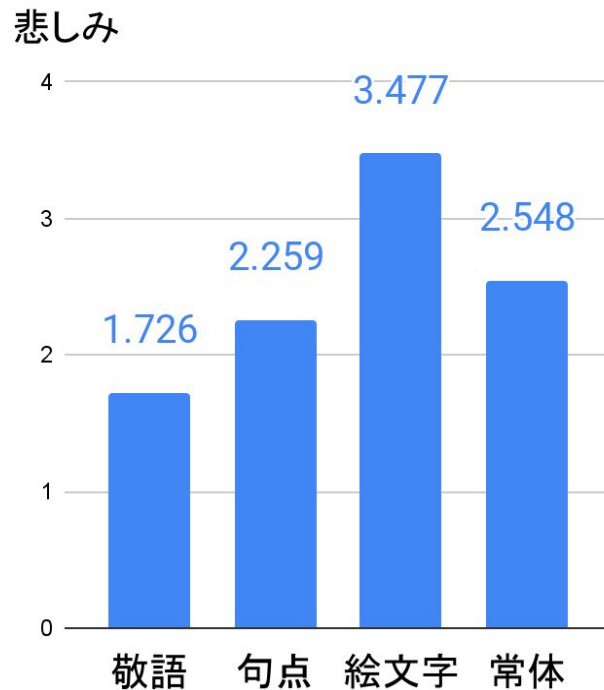
↳ Pポライトネス

・敬語が低い

↳ Nポライトネス

・句点が低い

○絵文字が適切



D: 考察

恐れ⇒Pフェイス

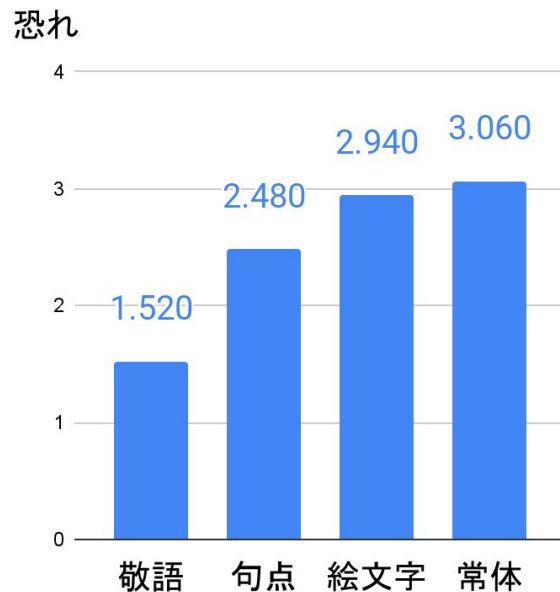
・敬語が低い

↳Nポライトネス

・句点が低い

状況設定、選択文章が適切でなかった

○常体もしくはは絵文字が適切か



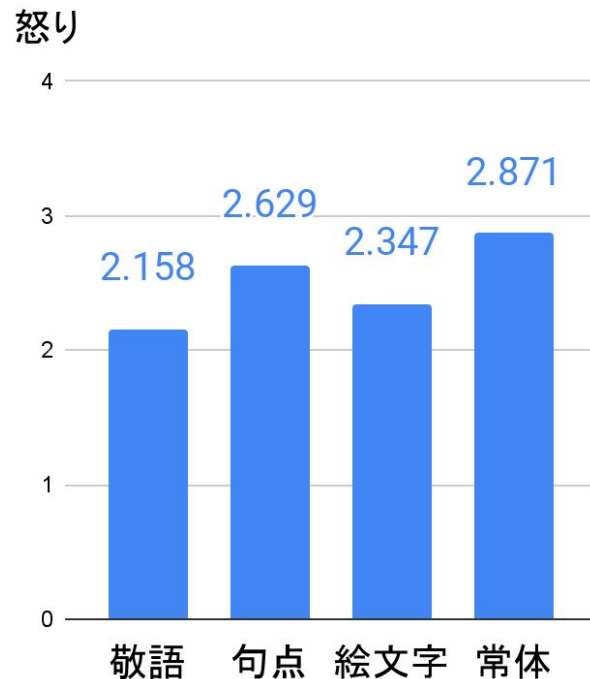
D: 考察

怒り⇒Nフェイス

- ・敬語が低い
- ・絵文字が低い

フェイスの位置づけが適切でなかった
状況設定、選択文章が適切でなかった

○常体が適切か



D: 考察(まとめ)

感謝 絵文字 謝罪 敬語

喜び 絵文字 悲しみ 絵文字

恐れ 常体・絵文字 怒り 常体

句点はNポライトネスに位置していると考えられる

結論

感情によって伝わりやすい文末表現は異なる



フェイスによって異なる

フェイスを判断しながら文末表現を変えると良い

反省

- ・調査方法をもっと精査する必要があった
- ・フェイスの場面設定での位置づけがうまくいかなかった
- ・敬語の種類や絵文字の種類を増やして調査したい
- ・高校生以外の世代にも調査したい

参考文献

中井あづみ(2012)怒りと怒りの近似概念の操作的定義の異同および怒りの創作定義に影響を与えた要因

徐 璐(2014)日本語の敬語使用とポライトネス

大塚生子(2013)ポライトネス理論におけるフェイスに関する一考察

宗森 純,大野純佳,吉野 孝(2006)絵文字チャットによるコミュニケーションの提案と評価

廣瀬 信之, 牛島 悠介, 森 周司 (2014)携帯電話メールによる感情の伝達に顔文字と絵文字が及ぼす影響